

平成27年度 第1回 区民版子ども子育て会議

世田谷区の子ども計画いよいよスタート！

どうなる？ファミサポ それなに？利用者支援

日時：平成27年4月18日(木) 18:30-21:00

会場：成城ホール4F 会議室C, D

参加申し込み：47人 欠席：8人 当日参加:10人

参加者数:49人

はじめに： 松田挨拶

1) 子ども計画（第2期）について 真鍋氏（計画担当）

子ども計画に関しては、学識経験者や事業者、保護者で構成する地方版子ども・子育て会議とは別に、昨年度11回実施した区民版子ども・子育て会議でも実際に現場で子ども・子育てを支えている区民のご意見もいただきながら、策定することができた。

・基本理念、子ども計画（第2期）で目指すべき姿

基本理念を、今を生きているこどもの視点にたって変更した。

変更点：子どもは、未来の希望です。 ⇒ 子どもは一人ひとりが今を生きる主体であるとともに、未来の希望です。

目指すべき姿についても事務局案の「子どもの生きる力を育む」から、区民版子・子会議での子どもが主体になっていない、子どもを主語にというご意見があり、ワークショップでの提案を反映させ、「子どもがいきいきわくわく育つまち」へと変更した。

・重点政策

○妊娠期からの切れ目のない支援・虐待予防

妊娠期から若者期まで切れ目なく支えていくことを掲げている。現状、子どもが生まれた後の支援として、ひろばや児童館、外遊びの場など親子が集い、相談につながる仕組みはできてきている。

課題として、妊娠届け以降は、医療機関との関わりが主となり、行政とつながる機会の少ない妊婦に対する相談支援体制に力を入れていく必要がある。

アンケートの結果、産前・産後に不安が強かった人は、現在も子育てを辛いと感じる人の割合が高い。

新たな体制を検討するとともに、ひろばや児童館などでも、妊婦が来ることができるという周知し、支援が必要な方をキャッチできる仕組みをつくっていきたい。

○子育て家庭を支える基盤の整備と質の向上

保育については、区民ニーズに応えるため、31年度までに約2万人まで定員を増やす計画としている。

また、量の拡充だけでなく質の向上を図るため、保育の質ガイドラインを策定した。保育士のみならず、保護者、地域の人にもガイドラインの内容を知ってもらい、協働して保育の質の確保・向上を図っていききたい。

保育待機児問題が喫緊の課題である中でも、タイトルに待機児解消と書かなかったのは、在宅子育て家庭も含めた子育て支援全体の基盤整備と質の向上に努めるため。

○子どもの生きる力の育み

外遊びの機会と場の拡充を重点政策として掲げている。当事者も参画する検討委員会を立ち上げ、具体的の推進に向けた議論を進めていく。

・子ども・子育て応援都市宣言

本日は出来たてのちらしを配布している。

「子どもの声は騒音か」という議論をきっかけに、地域の皆で子ども・と子育て家庭を応援する、という区の姿勢をメッセージとして打ち出し、意識啓発を図ることを目的に宣言を行った。

・子ども・子育て支援事業計画

気軽に相談できる場の拡充の一環として利用者支援事業が新たにはじまっている。今後、ひろば等で地域展開を図っていく。

また、主に在宅子育て家庭への支援として、一時預かり事業の拡充を進める。その一環として社会福祉協議会に委託をしてファミリー・サポート・センター事業を7月から開始する。今まででもふれあい子育て支援事業として実施いただいていたが、質的・量的な充実を目指し導入した。

2) 利用者支援事業について

今は8000人近く生まれている世田谷区できめの細かいサービスは行政だけでは厳しいといったところで、利用者支援事業を「世田谷区地域子育て支援コーディネーター」という名称で4月から開始した。

窓口に来てもらうより身近な場所に対応していく。

困っている、手続きしたい より手前の人への対応

地域の中で顔のみえる関係があるなかでの相談事業

現在相談している機関につなげる、地域のグループ、お互いさまの場にもつながられるコ

ーディネータとして事業を進めていく。

また、子育て家庭のための新しい資源を作ることも同時に行っていく予定。

(地域の人に協力してもらいものを開発(企画)、工夫することもできるような活動)

平成27年度はせたがや子育てネット事務所内に中間支援センター機能を設営

今現在、電話は10時から3時と受付の時間が決まっているが、メールは24時間送信可能

4年後には5か所で展開する予定。

それぞれの支援者・支援団体が気になる人を紹介してもらうのもOK

今のところ、区内の子育てをはじめ、世田谷区に転入予定の人の相談もある

3) ファミリーサポートセンター事業について 江口氏(世田谷社協)

平成13年9月からふれあい子育て事業(地域の支えあい)を開始している

6月30日をもって事業を終了し、7月1日からファミリーサポートセンター事業を開始

案内ができたばかり

ファミリーサポートセンター事業も地域での子育て世帯へのサポートのスタンスは変わらない 地域の人が担い手

ふれあい子育て～の変更として、利用のしやすさを重視

対象:小3 → 小6

遠方、習い事の送迎の対応も可能に

援助会員への研修が24時間の設定となった(今までは半日)

巡回支援(安全の視点をとりいれながら、活動している現場をみてのヒアリング)

援助会員にも安心して参画していける体制づくり

ファミリーサポートセンターも1部署として設置(本部建物の5階に突貫で事務所として設置)専属スペースをつくった

4) グループ自己紹介&質問、感想のシェア

ポストイトに質問、感想を書き込んだものを自己紹介しながらすすめる

子ども・若者部 部長 中村氏のご紹介

7年前に施設整備の保育関係にもいたことあるが、今回帰ってきたら、待機児童の数が5,6倍になっていて、地域の活動のすそ野がひろがっていたことを感じた。

8グループからのシェアリング

1. 役所、おでかけひろば(生活クラブ)、社協 (さかい)

話を身近な立場で聞く、ないものをつくるのはすごい発想
身近な人の気構えがないほうが相談しやすいのかも（生活クラブ）

2. 主任児童委員、児童館職員、ひろば セルフケア実施NPO支援者(堀)

本当に必要な人にどう情報を届けるのか 直接当事者の人と話す機会がない
来れない人とのつながりをどうつくるか、とどけるか

子ども計画の切れ目のない支援、妊娠期からの支援をどうできるか行政と地域で何ができる
のだろうかを話した

3. 子ども若者部、児童館、ファミサポ、きぬたま、プレーパーク、支援コーディネータ(石井)

ファミサポの話に終始

どれくらいまわっているのか、対象年齢が広がったのはなぜ？などの疑問にこたえてもら
っていた

小1ギャップへの預け先のなさへのギャップにファミサポや利用者支援がなかったらいいと
いう話がでた

4. ひろば、野沢テットー、利用者相談をはじめた、社協、子ども若者部(首藤)

できない理由を探すのではなくなかったら作る

気軽に相談できるのがいい、利用してる人たち同士が支えあいをしていくひろばの話

きめこまかい支援、ファミサポ事業の話に終始(研修内容、研修を受けられる人たちがいる
のかなど具体的に聞いていた)

5. 社協、子ども劇場、子ども若者部(松本)

部長がいるということで、保育園の話に終始してしまった

離婚したら、別居婚、クレーマーになると入園できるという話など

6. 児童館、主任児童委員、子ども育成推進会、社協、子育て支援（藤里）

ファミサポの研修、内容についての話が多かった

7. 構成メンバーの紹介なし（そらまめ：渡辺）

新保連が在宅にジャンルに入る

妊娠期のお母さんたちにどうアプローチしているか

産婦人科にパンフレット持参してもはねられてしまい、雑誌からの情報が多くなってしま
う。夢をみての子育てが想像とはちがう。どうやったらそこにアプローチできるのか

8. コーディネータ2名、社協、プレーパーク、世田谷区百瀬(石山)

ファミサポの話がよくわからない、どう周知していったらよいか

地域の支えあいの着地点はどこ？援助会員の増やし方→新しい働き方としての提案

切れ目のない支援：周知、告知しているのに知らないというジレンマをどう解消する？

ママにアンケートとってみるのはどうか

<援助会員の確保について>

ファミサポがはじめると利用会員が増えるのではないか

現状についての説明(江口)

新しい事業への更新状況

これを機にやめる人もいる(登録はしていたけど、実際には活動できない)

26年度 1060人 ふれあい援助会員 → 更新 550人

研修受講したうえでの更新手続き中

研修は定員30名で5回実施予定

26年度利用会員(登録しただけの人も含む) 4207人

現時点での更新申し込み 1500人

毎月説明会を各地域で1回ずつ実施 (土曜日にも実施)

1000人単位で新たな利用登録者ができると予測している

甘く見積もって2500人になるか!?

<援助会員を増やすためのアイデアだし>

知っているからという言い訳はしない、妄想でもいい、突飛なアイデア大歓迎

いくつかアイデアだしを各グループで

利用会員にも協力してもらえることもあり

ピンク以外の色のポストイットで

それぞれのグループで話されたことを記録しておいてください(8:40まで)

グループのアイデアのシェアリング

○一人であずかるのはつまらない、忍耐がいる→たくさんお母さんが集まっているところ

であずかる →グループでのあずかりもあるといい

★一人で預かる場合でも、毎週一人で担当するのではなく、何人かでフォローする(チーム

制)

○援助会員を飛躍的に増やすには
出向いての説明会をする
おせっかいをしたい人に焦点をあわせる
→PTA、地域の町会・自治会、

○若い人をどう集めるか（大学生、高校生）
コンビニで募集を告知する
学生も援助会員に

○孫のいない夫婦であずかる
説明会の開催 PTAのおやじの会
小学校、中学校、私立校での説明会→社会貢献というキーワードで

○支援者になった実際の声をきける会があるとイメージが付きやすい
保育園の一日公開日を地域にもひろげる → 子どもの実態がわかる

○援助会員と利用会員の合コンはどうか？知らないから
関係性ができる
(これからやってみようかと思っている人も)

○広報のしかたも(写真も若い人を)要検討
実際に援助している人の声を載せる
ネーミングも「援助」「利用」ではないものに変更する

○個人宅ではなくおでかけひろばであずかるのは？
説明会もおでかけひろばで実施する
赤ちゃんいてもあずかれる。利用会員と援助会員が両方でできるのでは。

○小さい子がいる家庭でも研修受けやすく
子育て中の人も社会貢献を感じながらできる、
具体的には？→保育付であれば

○おでかけひろばの一時預かりの研修内容にも重なるので、一本化されるといい

○元気な人にどうやったらチラシを届けられるか → サークル、市民活動推進課
待ち時間の多い 銀行(信用金庫など)、郵便局、病院
受講料の2000円がハードルを高くしているのでは
30名定員を断られるとモチベーションをさがらない対策を

○預かっている雰囲気がわかる動画を流す

○援助会員となつてこどもをあずかるとポイントがたまって商店街で得点がある
商店街の活性化にもつながるのでは？
商店街と子育てという

○子どもに慣れる(抱っこ隊)イベントを児童館で実施

○広報をみただけでは、子どもの年齢がわからないと不安
「得意分野など事前に聞きます」と書いてあると安心するかも

■グループ発表を受けて・・・(江口さん)

運営側だけではアイデアの発想の範囲が固まっているかも
社協でも大きな課題としているので、すすめていくところはすすめていく
利用を希望されている方に届けられるように努力していく

荷物のように子どもを預ける・・・といわれるのは「仕組み」が悪いだけ
おでかけひろばの人たちとも関わりながら、地域とつながっていくところを大事にしながら進めていきたい。